

第22回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨	
開催日時	平成29年2月17日（金） 10:00～11:30
場 所	長野市役所第二庁舎10階 講堂
出席者	<p>[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、西堀委員、</p> <p>[事務局（行政管理課）]</p> <p>小川総務部長、丸山行政管理課長、村上行政管理課長補佐兼公共施設マネジメント推進室長、大塚行政管理課長補佐、渡辺行政管理課係長、竹内行政管理課主事</p> <p>[文化スポーツ振興部]</p> <p>倉石文化スポーツ振興部長、下平スポーツ課長、高木スポーツ課長補佐</p> <p>[事務局支援]</p> <p>一般財団法人長野経済研究所：折井研究員</p>
議 事	<p>(1) ボブスレー・リュージュパークの在り方の検討について</p> <p>(2) 公共施設等総合管理計画のパブリックコメントの結果について</p> <p>(3) PPP/PFI 手法導入優先検討規程等について</p> <p>(4) その他</p>

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) ボブスレー・リュージュパークの在り方の検討について
- (2) 公共施設等総合管理計画のパブリックコメントの結果について
- (3) PPP/PFI 手法導入優先検討規程等について
- (4) その他

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) ボブスレー・リュージュパークの在り方の検討について

委員長 前回までのスポーツ課の説明や現地視察等を踏まえて、各委員のお考えをお聞かせいただきたい。

委 員 結論としては、冬季の製氷を中止する「一部休止」がよいのではないかと。平成17年および平成26年に包括外部監査において指摘されているように、「施設の利用方法としては、様々な後利用が検討されてきているが、今のところ競技施設としての利用が中心であり、一般市民が気軽に利用できる状況といえるかは疑問である。」というこ

とである。市民に対する出前講座を行っていく中で、アンケート調査をした結果、大部分の方がスパイラルをこのまま維持していくことに関して、積極的な賛成はしかねるという結果が出ている。また、施設は設置後20年が経っており、フルでリニューアルするには相当お金がかかる。平成7年の「オリンピック競技施設の後利用に関する提言書」において、周辺を含めた施設全体は、家族連れで楽しめるものとし、利用を図ることが望ましいという提言も出ている。これをきっかけとして、広く飯綱高原の再開発とうまくマッチングして積極的に取り組んでいただきたい。そのために、地元の皆様方にも参加していただいて、地域の活性化のために施設を利用していただきたい。

委員 ただいまの意見に同意である。地元や競技連盟などから存続の要望が出ているが、国から一層の支援は難しいという状況で、平昌五輪以降ナショナルトレーニングセンターの指定を受けたとしても、問題を先送りするだけである。

委員 2015年9月から2016年7月までの市民アンケートの結果を見ると、オリンピック施設をできるだけ存続させると回答した方は3%に留まり、利用状況に応じて施設ごとに見直しが必要であると回答した方は全体の9割を超えている。スパイラルの施設利用状況は、主に競技者のみで、近年は若干増えているが年間5千人前後となっており、施設規模の割には利用者は少ない。

施設を視察したが、20年経った今でもきちんと整備されている。市がしっかりと対応されていることもあるが、その体験教室や環境整備など、地元の皆さんのボランティアとしての活動は、施設を運営する中で大きな役割を果たしてきた。今後は、地元である浅川地区や競技連盟、関心を持っている市民など、意見要望をしっかりと聞いていく中で、施設の有効活用と地域活性化について、きめ細かな検討と対応が必要になってくる。

委員 現地視察で、照明や電光掲示等の更新が必要な様子も見て、私も同じ意見である。

委員 スパイラルについては、他のオリンピック施設と違い、競技施設の特殊性・競技人口の希少性があり、建設前からオリンピック閉幕後の競技会場としての採算は厳しいとされていた中で、今日に至るまで、ナショナルトレーニングセンターの補助金と長野市の独自財源で維持管理を行い、地元の皆さんの協力もあり、財産として守ってきたものと考えている。その中で、平昌五輪が決定し、最新型の施設が韓国にできた。北京でも施設の建設着手の検討に入っている。今までの「アジア唯一の競技会場」という役割はここで一段落するのではないか。

最優先で考えるべきは、市民の受益と負担のバランスである。スパイラルがあることで、市民はどれだけの受益があり、その見返りでどの程度負担をするかということを考えれば、現状維持は困難であると考ええる。維持管理の負担を軽減し、施設は残した上で今後の市のビジョンを検討し、PPP/PFIやコンセッション方式などを多面的に検討した上で、速やかに施設を見定めていくことが望ましいのではないかと。

委員長 様々なご意見をいただいたが、表現は違えど意見は一致しているようである。平昌五輪以降は、製氷はせず競技施設としては使えないが、施設自体は市民が広く自由に使えるようにするということが、提言としては「一部休止」にしたいと思う。提言書の細かな文面については、いただいた意見を踏まえて早急に作成し、各委員に最終確認をしていただく。

(2) 公共施設等総合管理計画のパブリックコメントの結果について

(3) PPP/PFI 手法導入優先検討規程等について

〔資料1～3について事務局より説明〕

- 委員 資料2について、個別施設の意見が多く出されている。今までは総論の段階だったが、今後は各論の段階に入っていくため、市の目指す統廃合がうまくいかないことも想定される。方向性が決まっていない検討段階で、噂だけが先行してしまうと検討しづらくなってしまう可能性もあるので、補足説明のような情報発信は必要であると思う。
- 事務局 新年度以降の取組として、芋井地区のようなワークショップを他の地区でも行っていくことと、出前講座の第2弾ということで、各地区の施設の状況などを示しながら、今までよりも踏み込んだ意見交換をしたいと考えている。
- 委員 今回の総合管理計画については、今後の計画・予定を示しているもので、方向性が決定しているものではないというのは広報していかないといけない。この総合管理計画は、市民にとっても大きな影響があるもので、市民一人ひとりが考えていかなければいけない問題である。報道機関などにも積極的にアピールをして、取り上げてもらえるよう努力するべきである。
- 委員 資料3について、市民目線で考えると PPP/PFI というのはとても難しいシステムである。事業を行う業者にとっても非常に難しいので、市民に対しては、基本的な部分を分かりやすく説明する必要がある。
- 事務局 PPP/PFI については、まず庁内の職員に制度を理解してもらう必要がある。手続きにも時間がかかるので、事業化になる前の早い段階で、導入の検討を始められる仕組みづくりをしていきたいと考えている。

【閉 会】